



# 資料編

## キリングroup環境方針

### 基本方針

キリングroupは、社会課題の解決による事業の持続的成長を経営の根幹に据え、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

### 行動指針

事業活動のあらゆる側面で、環境に関わる社会課題の解決を経営の最重要課題の一つとして高い目標を設定し、トップのリーダーシップと従業員の全員参加で取り組みます。

#### ■ コンプライアンス

私たちは事業活動に関連する環境の法規制・協定及び自主管理基準について、高いモラルで順守します。

#### ■ 技術開発

私たちは革新的な技術や手段を創出・導入するとともに、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働して持続的に課題解決に取り組みます。

#### ■ 環境マネジメント

私たちは環境マネジメントシステムを構築し、経営戦略と連動させて継続的に改善します。

#### ■ 人材育成

私たちは自社およびその枠組みを超えて社会全体に、環境にポジティブな影響を創出し、実行できる人材を継続的に育成します。

#### ■ コミュニケーション

私たちは透明性、信頼性の高い情報を発信し、広くステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

2021年10月改訂

## キリングroup生物多様性保全宣言

キリングroupは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリングgroupは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的に行います。

### 1. 生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

### 2. キリングgroupの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

### 3. ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

### 4. 条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年10月策定・発表

## キリングgroup持続可能な生物資源調達ガイドライン

### ■目的

「キリングgroup生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

### ■適用範囲

キリングgroupが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊等のリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

### ■持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリングgroupは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

1. 違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
2. 信頼できる第三者によって認証された農園・森林等に由来するもの
3. 環境破壊などを行っていると判断されている事業者が生産したものではないもの\*

### ■実施と運用に関して

左記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。

取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・NGOなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

### ■情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートやWeb等を通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

\* 現在のところFSCのPolicy for the Association of Organization with FSCを参照とします。

2012年12月策定、2013年6月発表

関連情報→P.33～P.42

## キリングroup持続可能な生物資源利用行動計画

### 1. 紅茶

キリンビバレッジ株式会社が使用する紅茶葉の主要な原料生産地であるスリランカで、紅茶農園の持・続可能性向上を目指します。

- ・調達先のスリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。\*1
- ・レインフォレスト・アライアンス認証マーク付きの通年商品で認知度を向上させます。
- ・スリランカの紅茶農園にある水源地を保全します。

### 2. 紙

2020年に達成したキリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社でのFSC認証紙または古紙の使用比率100%を継続し、海外を含めたグループ会社全体に拡大していきます。

- ・紙製容器包装\*2は、2030年までに持続可能性に配慮したことが確認された紙\*3を100%使用します。\*4
- ・その他の紙は、持続可能性に配慮したことが確認された紙、または古紙を使用します。\*5

### 3. パーム油

国内事業が1次原料および2次原料として使用しているパーム油について、RSPO認証証明取引を利用して100%対応します。

- ・1次原料はRSPOの認証クレジット\*6を利用して対応します。2030年までにはRSPO認証パーム油\*7の調達を開始し、順次切り替えていきます。
- ・2次原料は、RSPOの認証クレジットを利用して対応します。RSPO、サプライヤー、NGOおよびさまざまなステークホルダーと連携し、調達先がRSPO認証パーム油を原料として使用できるように取り組みを行っていきます。

### 4. コーヒー

キリンビバレッジ株式会社が使用するコーヒー豆の主要な原料生産地であるベトナムで、コーヒー農園の持続可能性向上を目指します。

- ・ベトナムのコーヒー農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。
- ・ベトナムのコーヒー農園の保水能力を向上させます。

### 5. 大豆

キリンビール株式会社が使用する大豆およびその加工品\*8において、持続可能性の高い農園の大豆を使用していきます。

- ・調達先の大豆農園を特定します。
- ・特定した大豆農園の持続可能性を確認します。

\*1 具体的な目標はCSVコミットメントで定めます。

\*2 限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品、法によって規制された商品等は除きます。

\*3 FSC認証紙を優先し、困難な場合はFSC管理木材（コントロールウッド）、PEFC認証（持続可能性が確認された地域に限る）、キリングroup持続可能な生物資源調達ガイドラインに適合する紙の順とします。また認証等がない紙を使用する場合は、調達先へのアンケート等によって、持続可能性への配慮を確認します。

\*4 対象事業会社は、キリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社、Lion Pty Ltd、小岩井乳業株式会社とします。対象となる容器の種類や達成年等はCSVコミットメントで定めます。

\*5 対象事業会社は\*4の対象事業会社に加えて、キリングroupロジスティクス株式会社、キリンシティ株式会社、Interfood Shareholding Company、Myanmar Brewery Ltd、Four Roses Distillery、LLCとします。具体的な目標は各社で定めます。

\*6 Book and Claim方式

\*7 IP (Identity Preserved)、SG (Segregation)、MB (Mass Balance) のいずれかに適合するもの

\*8 大豆タンパク

2013年2月策定 2021年7月改定

## キリングroup遺伝資源アクセス管理原則

- 1.生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。
- 2.遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。
- 3.遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な配分を含め、国際条約に従い適切に管理する。

2010年10月策定・発表

## キリングroup プラスチックポリシー

### 1. PETボトルの資源循環を推進します。

キリングroupが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用PET樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングroupは、PETボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指します。

また、PETボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済PETボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングgroupでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済PETボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。

### 2. ワンウェイプラスチック\*の削減および他の素材への代替に努めます。

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われていています。キリングgroupは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

### 3. PETボトル原料の持続性向上を目指します。

キリングgroupでは、これまでも環境負荷軽減の観点からPETボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PETボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPETボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。また、キリンビバレッジでは、一般社団法人 全国清涼飲料連合会が昨年発表した「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言2018」に賛同し、「2030年までにPETボトルの100%有効利用」の実現に向けて、業界を挙げて取り組んでいきます。

2019年2月策定

[関連情報→P.51～P.53](#)

## 環境に配慮した容器包装等設計基本方針

### 1. 目的

地球の豊かなめぐみと環境を持続的なかたちで将来につなぎ、お客様と社会全体に価値を提供し続けるために、法令ならびに「環境に配慮した容器包装等設計指針」を遵守することにより、持続可能な容器包装の開発・普及、営業活動における廃棄物の削減およびリサイクルの推進を通して、資源循環システムの構築に貢献します。

### 2. 容器包装の開発・設計・採用の基本的考え方

- (1) 開発・設計に当たっては、内容物の品質保持・安全衛生と容器包装自体の安全性、製品情報の適正表示を前提に、環境適性、お客様の使いやすさ、輸送効率ならびに経済性を考慮する。
- (2) 採用に当たっては、さらにお客様の購入・飲用形態、販売形態および内容物の特性に応じたものを選択する。

### 3. 容器包装の開発・設計・採用に当たっての環境配慮の考え方

- (1) 調達からリサイクルまでの容器包装のライフサイクル全体での環境負荷低減を図り、自然環境への影響を最小限に抑える。
- (2) 資源有効利用、循環型社会の実現に寄与するために、リサイクルや廃棄が容易で環境負荷の少ない素材、再生可能資源を使用した素材を使用する。
- (3) 脱炭素社会の実現に寄与するために、容器包装製造および商品輸送工程でのエネルギー使用量および温室効果ガス発生量の少ない素材を選定する。
- (4) 廃棄処理時の環境汚染防止に配慮した素材を選定する。
- (5) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+Renewable（持続可能な資源）は、次項に従って推進する。

### 4. 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+Renewable（持続可能な資源）推進の指針

- (1) 発生抑制（Reduce）
  - ① 容器包装及び販売促進ツール等の軽量化に努め、材料の使用量の低減に努める。
  - ② リサイクル時や廃棄時に、折りたたみ、押しつぶし等により、できるだけ体積が小さくなるように減容化に努める。
  - ③ 簡易包装への切り替え、個別包装・外装の省略を推進し、包装の適正化に努める。
- (2) 再使用（Reuse）
  - ① 再使用および再充填の回数ができるだけ多くなるように努める。
  - ② 再使用および再充填に係る環境負荷ができるだけ少なくなるように努める。
- (3) 再生利用（Recycle）
  - ① 再生使用（水平リサイクル）を増やすように努める。
  - ② できるだけ単一素材を使用し、2種以上の素材を使用する場合は、容易に分離が可能となるように努める。
  - ③ 再生された素材および再生品使用比率の高い素材を使用するように努める。
  - ④ 分別排出、分別収集、選別を容易にする仕様・デザインに努める。
- (4) 持続可能な資源（Renewable）
  - ① バイオマス由来の素材を使用するように努める。

2024年2月29日改訂

※1 キリンググループでは、酒類や清涼飲料などの主要な容器については、適宜LCA（ライフサイクルアセスメント）を実施し、商品の特性、お客様の1回当たりの購入単位、主な販売店の形態、空容器回収の見込みなども総合的に考えた上で、容器を選択しています。

## エコ・ファーストの約束

キリンググループは、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

### 1. 持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行い、農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします。

- 2025年までに、スリランカの小規模紅茶農園10,000農園がレインフォレスト・アライアンス認証を取得できるように支援します。
- 2020年に達成したキリンホールディングス、キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンでの事務用紙のFSC認証紙または古紙の使用比率100%を継続し他事業にも拡大し、オフィスなどでのペーパーレス化も推進します。
- パーム油について継続して認証証明取引プログラムを利用して100%対応します。
- キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの製品廃棄量を2025年に2015年比で75%削減します。

### 2. 原料として使用する水を持続可能な状態にし、事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します。

- 全国の工場を中心に「水源の森づくり」活動を継続します。
- 水の高効率利用の推進、排水負荷の最小化に取り組み、地域の水資源を守ります。
- 2020年に達成したスリランカ紅茶農園の水源地5か所での保全活動を拡大し、水を大切にすることを農園周辺の住民15,000人からさらに拡大して実施します。

### 3. 持続可能な容器包装を開発し普及し、容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します。

- 2027年末までに、国内においてPETボトルのリサイクル材使用比率を50%に高めます。
- 2050年には、リサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装100%を目指します。
- 2020年に達成したキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの紙容器FSC認証紙使用比率100%を他事業にも拡大します。
- 国内の容器包装のリサイクルシステムの構築を牽引し、オフィスなどにおいても3Rを推進していきます。

### 4. バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにし、脱炭素社会構築に向けてリードします。

- 2050年までに、グループのバリューチェーン全体のGHG排出量をネットゼロにします。
- GHG排出量を2030年までに、2019年比でScope1とScope2の合計で50%、Scope3で30%削減します。
- RE100に加盟し、2040年までに自社の使用電力を再生可能エネルギー100%にします。

キリンホールディングス株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省へ報告、ならびに定期的にレポートなどによる公表を行ってまいります。

2008年6月策定 2021年2月改訂

環境省エコ・ファースト制度サイト <https://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/>

## Business for Natureによる「COP15に向けた企業声明 (自然に関する評価と開示の義務化について)」に署名

キリンホールディングスは、2022年12月にカナダのモントリオールで開催された「国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」において、2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させるため、全ての企業と金融機関による自然への影響と依存の評価および開示の義務化を目指し、Business for Natureが、当社を含む世界各国の企業に対して、賛同、署名を呼びかけた「COP15に向けた企業声明」に賛同し、2022年10月18日に署名しました。

## WWFジャパン「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」へ参画

キリンホールディングスは、2022年2月22日にWWFジャパンが呼びかける、2025年へ向けた容器包装／使い捨てプラスチックに関するプラスチック諸問題の解決を目指す枠組み「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」(<https://www.wwf.or.jp/campaign/pcc2025/>)に参画しました。

## 「Business Ambition for 1.5°C」 「Uniting Business and Governments to Recover Better」に署名

キリングroupは、2020年6月24日に国連グローバル・コンパクト(以下、UNGC)、Science Based Targets(以下SBT)イニシアチブ、We Mean Businessの3者が、今後の世界の気温上昇を1.5°Cに抑える目標を設定するよう企業に要請する共同書簡「Business Ambition for 1.5°C」に署名しました。

SBT目標もしくはSBT目標の設定を宣言している企業に要請する「Uniting Business and Governments to Recover Better」にも同日に署名しました。

## 「気候変動に取り組み企業が求める3つの戦略と9つの 政策 自然エネルギーの電力を利用しやすい国に」に賛同

キリンホールディングスは、2020年7月30日に、企業を中心に自然エネルギーの利用拡大を推進するRE-User(自然エネルギーユーザー企業ネットワーク)らが提言した、「気候変動に取り組み企業が求める3つの戦略と9つの政策 自然エネルギーの電力を利用しやすい国に」に賛同しました。この提言は、RE-Userに参加する大企業20社の意見を基に、CDP JapanとWWFジャパンが協力して2020年1月に策定されました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響があっても、国を挙げて自然エネルギーの導入・利用を推進できるように、政府と電気事業者に対策を求めていくものです。

## 「電動車活用推進コンソーシアム」への参画

キリングroupは、2020年5月1日、電動業務車両の普及を目的とした「電動車活用推進コンソーシアム(以下、コンソーシアム)」に会員企業として参画しました。キリングroupは、今回コンソーシアムへの参画を通じて、自社の事業運営に適した実用性の高い電動業務用車両を検討するとともに、業界を横断した知見を共有し合い、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを促進します。

## Climate Leaders Coalitionへの参加

ライオンは、企業のCEOが緩和と適応に関する共同で透明でかつ有意義な行動を通じて気候変動への対応を主導することを使命としてAustralian Climate Leaders Coalition(CLC)への参加を継続しています。CLCに参加することで、ニュージーランドがゼロカーボン経済への移行を可能にする政策と投資を呼びかけるとともに、参加企業として排出量の測定と公的な報告、公的な排出量削減目標の設定、サプライヤーとの協力による排出量削減など、気候変動対策を行うことを約束します。

## TCFDシナリオ分析ガイダンスのインタビュー

2020年10月にTCFDから刊行された「シナリオ分析ガイダンス(Task Force on Climate-related Financial Disclosures Guidance on Scenario Analysis for Non-Financial Companies)」に、世界15社の1社としてインタビューで意見を述べました。

④ [https://assets.bbhub.io/company/sites/60/2020/09/2020-TCFD\\_Guidance-Scenario-Analysis-Guidance.pdf](https://assets.bbhub.io/company/sites/60/2020/09/2020-TCFD_Guidance-Scenario-Analysis-Guidance.pdf)

## 非財務情報開示に関する検討会への参加

キリングroupでは、2021年から継続して経済産業省の非財務情報開示指針研究会にCSV戦略担当役員が要請に応じて参加しています。この研究会では、非財務情報の利用者との質の高い対話につながる開示や開示媒体のあり方について検討するとともに、非財務情報の開示および指針に関する日本の立場を的確に発信し、本課題に関する国際的な評価を高めることを目指しています。CSV戦略担当役員は、2020年10月9日に開催された「TCFDサミット2020」(主催:経済産業省、共催:WBCSD、TCFDコンソーシアム)でもパネルディスカッションに登壇しています。

2020年には、担当者が業種別ガイダンス検討委員会(食品セクター)の検討委員として活動し、2020年7月31日に公開されたTCFDコンソーシアムの「気候関連財務情報開示に関するガイダンス2.0(TCFDガイダンス2.0)」の中で公開されています。

2022年～2023年には、環境省の「ネイチャーポジティブ経済研究会」の委員に担当者が参加しています。この検討会では、生物多様性・自然資本とビジネスの関係について、日本の産業構造を踏まえつつ、気候変動や循環経済などの諸課題の統合的解決などを目指しました。

# 政策提言につながる自主的な参画

## コンソーシアムおよび省庁の活動への参画

団体名	活動内容
TCFDコンソーシアム	キリンホールディングスは、「TCFDコンソーシアム」に2019年設立時より参画しています。2020年は、業種別ガイダンス検討委員会(食品セクター)の委員として活動しました。
WE MEAN BUSINESS	キリンググループは、WE MEAN BUSINESSが提唱する「SBTiによる削減目標の設定」[CDSBによるメインストリームレポートでの気候変動対応の報告]にコミットメントしています。
Science Based Targets Network	自然資本に関する科学的根拠に基づく目標を設定し、持続可能な地球システムの実現を目指す団体。 キリンホールディングスはGHG排出削減を目指すSBTi(Science Based Targets)の基準に沿った目標を設定し、2020年に「SBTi 1.5°C」目標、2022年には「SBTi ネットゼロ」の認定を取得しています。SBTiにつづく新たな自然資本の目標設定イニシアティブがSBTs for Nature。ルールメイキングを議論するコーポレートエンゲージメントプログラム(CEP)に国内医薬品・食品業界として初めて参画しています。
国連グローバル・コンパクト	キリンググループは「国連グローバル・コンパクト」に2005年9月に参加しました。
日本サステナビリティ・ローカル・グループ(JSLG)	キリンホールディングスは、ステアリング・コミティ・メンバーである理事として参加しています。
脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動	キリンググループは、2022年から始まった脱炭素に向けた新たな国民運動「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」に参加しています。また、本運動を支える「新国民運動官民連携協議会」にも参加しています。
経団連自主行動計画	キリンビールが加入するビール酒造組合およびキリンビバレッジが加盟する全国清涼飲料連合会では、地球環境の保全を考え、日本経団連の環境負荷低減の取り組みに参加し、GHG排出量削減と廃棄物の再資源化に取り組んでいます。
エコ・ファースト	企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度がエコ・ファーストです。キリンググループは製造業第1号として認定され、認定企業で組織する「エコ・ファースト推進協議会」にも参加しています。
生物多様性民間参画パートナーシップ	キリンホールディングスは、日本経済団体連合会と日本商工会議所、経済同友会の3団体が2010年に設立した「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加しています。
フォレスト・サポーターズ	キリンググループは、(社)国土緑化推進機構が運営事務局を務める美しい森林(もり)づくり推進国民運動である「フォレスト・サポーターズ」活動に参加しています。
ウォータープロジェクト	キリンググループは、健全な水循環の維持または回復の推進などを目的として発足した官民連携啓発プロジェクト「ウォータープロジェクト」に2014年から参加しています。
レインフォレスト・アライアンス コンソーシアム	キリンググループは、持続可能な農業の推進を目指すレインフォレスト・アライアンスとその認証商品を取り扱う企業が2015年9月に設立した「レインフォレスト・アライアンス コンソーシアム」に設立メンバーとして参加・活動しています。

団体名	活動内容
持続可能な紙利用のためのコンソーシアム(CSPU)	キリンググループは、紙の利用について先進的な取り組みを行う企業5社(現在10社)とWWFジャパンが設立した「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」に設立メンバーとして参画し、持続可能な紙利用のための取り組みを進めてきました。
グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)	地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、イノベーションを加速化するために設立された「グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)」に参加しています。
持続可能なパーム油のためのネットワーク(JaSPON)	持続可能なパーム油の調達と消費の促進を目指して設立された「持続可能なパーム油のためのネットワーク(JaSPON)」に参加しています。
Alliance To End Plastic Waste	キリンググループは、環境中の廃棄プラスチック問題を解決するための国際的非営利団体であるAlliance To End Plastic Wasteに参加しています。グローバルな視点で世界を取り巻くプラスチック廃棄物問題解決に取り組むことで、参加企業と共に「プラスチックが循環し続ける社会」の実現を目指しています。
The TNFD Forum	The TNFD Forumは、自然資本に関するリスク管理に向けた情報開示の枠組みである自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)のミッションとビジョンを共有するサポーターネットワークです。 キリンホールディングスは、2021年12月に国内食品飲料・医薬品として初めて参画しています。
Business for Nature	キリンホールディングスは、2022年12月に開催された「国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」に向けた「COP15に向けた企業声明」に賛同し、署名しました。
生産地	活動内容
スリランカ紅茶農園	茶葉生産地スリランカの紅茶農園で、持続性を高める目的で、2013年よりレインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を行っています。2018年からは、小農園の認証取得支援と農園の水源地保全も開始しています。
ベトナムコーヒー農園	2020年より、レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を、ベトナムのコーヒー農園に拡大しています。
岩手県遠野市ホップ畑	1963年から50年以上にわたるホップの原料となるホップの契約栽培が行われている遠野市で、2014年からホップ畑の生きもの調査を行い、豊かな里山の生態系を守る役割を明らかにする取り組みを行っています。
国内ブドウ畑	2014年から、長野県上田市陣場台地にあるメルシャンの自社管理畑 梶子(マリモ)ヴィンヤードや山梨県の天狗沢・城の平ヴィンヤードで、生態系調査・植生再生活動を行っています。麓の小学校では環境教室も行っています。



NGO・NPO・環境団体

団体名	活動内容
WWFジャパン	WWFジャパンには「持続可能な生物資源調達ガイドライン」「同行動計画」策定時に協力をいただきました。「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」も共同で設立し、活動を継続しています。
レインフォレスト・アライアンス	スリランカの紅茶農園および、ベトナムのコーヒー農園の認証取得支援を共同で行っています。
FSCジャパン	FSC認証紙普及のために共同で活動を行っています。キリングroupは、2017年に「SDGsとFSC認証に関するバンクオーバー宣言」にコミットメントしています。
RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)	キリンホールディングスは、「持続可能なパーム油」の生産と利用を促進する非営利組織、「持続可能なパーム油のための円卓会議」の準会員として活動しています。
こども国連環境会議推進協会 (JUNEC)	「キリン・スクール・チャレンジ」を共催しています。
アースウォッチ・ジャパン	梔子ヴィンヤードでの植生調査およびクララ再生活動を共同で実施しています。
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット	学童保育などを対象とした「環境マークプログラム」を共同で展開しています。

地域

活動名	活動内容
水源の森	キリングroupでは、1999年以来、ビール工場近隣の水源地で森林保全活動を継続し、現在では日本全国11カ所の森林づくりに、グループを挙げて取り組んでいます。
環境美化活動	国内各地に工場や事業所をもつキリングroupでは、地域社会の方々やNPOとの協力により、周辺地域をはじめ近隣の海岸・河川などの清掃活動に取り組んでいます。
自主的なアルミ缶回収	缶メーカーが行っているアルミ缶回収を支援しています。

業界団体

団体名	活動内容
ビール造組	容器包装や地球温暖化対策・循環型社会形成などの環境自主行動計画の策定・取り組み、飲料容器の散乱防止・環境美化などを共同で行っています。
全国清涼飲料連合会	容器包装や地球温暖化対策・循環型社会形成などの環境自主行動計画の策定・取り組み、飲料容器の散乱防止・環境美化などを共同で行っています。
リサイクル関係団体	容器包装リサイクル協会や各種リサイクル推進協議会などとともに3Rを推進しています。
食品容器環境美化協会	飲料メーカー6団体が集まり、環境美化のための活動を行っています。

次世代エンゲージメント

活動名	活動内容
キリン・スクール・チャレンジ	中高生を対象に、環境ワークショップを開催しています。
全国ユース環境ネットワーク	環境省と独立行政法人環境再生保全機構が主催する全国ユース環境ネットワークに協賛し、地方大会・全国大会の審査委員を務めています。
環境マークプログラム	キリングroupは、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが地球環境基金の助成を得て開発した「環境マークプログラム」をベースとして共同で開発した特別バージョンのツールを使って、学童保育やガールスカウト・ボーイスカウト、図書館などの子どもたちを対象としたプログラムの実施を支援しています。
工場環境ツアー	横浜工場「自然の恵みを感じるツアー」などを実施しています。

研究機関

団体名	活動内容
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	遊休荒廃地におけるブドウ畑の造成に伴う生態系の変化の共同研究、および希少種・在来種の植生再生活動を行っています。

# グリーンボンド

第18回無担保普通社債（グリーンボンド）資金充当状況・インパクトレポート（2023年12月時点）

調達金額	未充当金額
100億円	0円（全額充当済）

プロジェクト名称	概要	インパクトレポート
再生PET樹脂の調達	<p>再生PET樹脂は使用済みのペットボトルをメカニカルリサイクルすることで製造されるものです。ペットボトルの原料に利用することで、ペットボトルをペットボトルに再生することが可能となり、化石資源の利用削減につながるほか、石油由来のペットボトルの製造と比較し、樹脂製造段階のCO<sub>2</sub>排出量が約50～60%削減されることが示されています。日本では年間に583千トンの指定ペットボトルが販売されているのに対し、ペットボトルの原料に利用された再生PET樹脂の量は168.8千トンにとどまっており、ペットボトル製造における再生PET樹脂の利用拡大が求められています。</p> <p>充当済金額（累計）：95億円（リファイナンス割合21.9%）</p>	 <p>グループ全体におけるリサイクルPET樹脂比率は28%となっております。</p>
工場におけるヒートポンプシステム導入	<p>ヒートポンプシステムは空気や水から低温熱源を回収し、エネルギーを加えることで、高温エネルギーに転換する技術です。</p> <p>産業用では、廃気や排熱などの未利熱源を使って高温エネルギーを生成し、加熱、保温、殺菌、乾燥、洗浄、蒸留といった生産プロセスで適用されています。</p> <p>キリングループでは、製造プロセスによるGHG排出の大半を占める、加熱工程の為に化石燃料の燃焼を、ヒートポンプシステムによって代替することを予定しており、また、エネルギー源として使用する電力を再生可能エネルギーによって調達することで、よりGHG排出量の少ない製造システムの整備に取り組んでいます。</p> <p>日本国内5工場にてヒートポンプシステム導入が完了しております。</p> <p>充当済金額（累計）：5億円（リファイナンス割合41.7%）</p>	 <p>ヒートポンプシステム導入による2022年度のGHG削減量は4,185tとなっております。</p>

# 環境マネジメント認証取得状況

2024年6月現在の状況です。

## 日本

事業会社	事業所	種類
麒麟ビール	統合認証 (10)	自己適合宣言
麒麟ビバレッジ	統合認証 (3)	自己適合宣言
メルシャン	統合認証 (3)	自己適合宣言
麒麟ディスティラリー	富士御殿場蒸溜所 (1)	自己適合宣言
信州ビバレッジ	本社工場	第三者認証
協和麒麟	高崎工場、宇部工場、東京リサーチパーク、富士事業場	自己適合宣言
協和発酵バイオ	本社、山口事業所	第三者認証
協和ファーマケミカル	協和ファーマケミカル	第三者認証

第三者認証取得事業所数	4
自己適合宣言事業所数	21
認証未取得事業所数	2
取得率 (%)	93

## 海外

事業会社	事業所	種類
	Little Creatures Brewery Fremantle Little Creatures Brewery Geelong Little Creatures Packaging O'Connor Malt Shovel Brewery Castlemaine Perkins Brewery	
ライオン	James Boag Brewery Murwillumbah Brewery Tooheys Brewery Pride Brewery Speights Brewery Wither Hills Winery	第三者認証
ベトナム麒麟ビバレッジ	ベトナム麒麟ビバレッジ	第三者認証
麒麟啤酒 (珠海)	金鼎工場	第三者認証
協和発酵バイオ	Thai Kyowa Biotechnologies 上海協和アミノ酸	第三者認証

認証取得事業所数	15
認証未取得事業所数	9
取得率 (%)	63

# 環境への取り組みの歴史

## 環境年表

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み	年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2024年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ GPIFの国内株式会社運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」で項目別得点で最高点を取得(3月)</li> <li>■ 物流2024年問題への対策として「輸配送戦略」と「拠点戦略」の両輪で運賃改定や長距離輸送・荷待ち荷役時間削減に向けた取り組みを加速(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビールの全工場・全営業拠点で購入する電力を100%再生可能エネルギー化開始(1月)</li> <li>■ シャトー・メルシャン椀子ヴィンヤードで農研機構とGHG固定を含む、環境再生型農業に関する共同研究を開始(3月)</li> </ul>	—	—	2022年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「生物多様性のための30by30アライアンス」自然共生サイト後期実証事業に「椀子ヴィンヤード」参加(9月)</li> <li>■ 世界の食品企業初でSBTネットゼロの認定を取得(8月)</li> <li>■ 「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟(4月)</li> <li>■ GPIFの国内株式会社運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」に選定(3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 協和キリン宇部工場へ大規模太陽光発電設備導入(12月)</li> <li>■ キリンビール仙台工場で購入する全電力を100%再生可能エネルギー化(1月)</li> <li>■ 「シャトー・メルシャン」3ワイナリーで購入する全電力を100%再生可能エネルギー化(1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビバレッジ・千葉葉品「ヤックスドラッグ」全店で「ボトルtoボトル」水平リサイクル開始(10月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・愛知県清須市「ペットボトルの水平リサイクル」に関する協定書締結(10月)</li> <li>■ キリンビバレッジ自動販売機横に異物混入削減業務統一仕様の新機能リサイクルボックス導入開始(9月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・東武鉄道「ボトルtoボトル」水平リサイクルを開始(7月)</li> <li>■ 「キリン 生茶 紙シール付ラベルレス」首都圏エリアの一部の量販店でテスト販売開始(4月)</li> <li>■ 「キリン 生茶」で、ラベル短尺化、再生PET樹脂を100%使用したR100ペットボトルを拡大(3月)</li> <li>■ 「酵素でペットボトルをリサイクル」PET分解酵素の産業応用に向けた共同研究を開始(1月)</li> </ul>	—
2023年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「椀子ヴィンヤードが環境省から自然共生サイトに正式認定(10月)</li> <li>■ GPIFの国内株式会社運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」2年連続で最多得票数獲得(3月)</li> <li>■ 椀子ヴィンヤードが環境省から自然共生サイトに認定相当取得(1月)</li> <li>■ 国内の食品企業として初のトランジション・リンク・ローン(500億円)実行(1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビバレッジ湘南工場へPPAモデル導入による太陽光発電電力の活用開始(5月)</li> <li>■ 協和キリン、工場2拠点、研究所3拠点でRE100基準の再生可能エネルギー導入(4月)</li> <li>■ キリンビール取手工場で購入する全電力を100%再生可能エネルギー化(4月)</li> <li>■ メルシャン 藤沢工場へPPAモデルで太陽光発電電力の活用開始(3月)</li> <li>■ ライオンのオーストラリア・ニューゼalandで購入電力再生100%(1月)</li> <li>■ キリンビール福岡工場・岡山工場で購入全電力を100%再生可能エネルギー化(1月)</li> <li>■ 再生型農業の実践をサポートする「リジエネラティブ・ティースコアカード」をレインフォレスト・アライアンスと共同で開発開始(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PETケミカルリサイクル技術として、PETの分解工程で短時間・低エネルギーを実現する「アルカリ分解法」と、PET分解後のモノマー精製工程で環境負荷軽減とコスト削減を両立した「電気透析」による精製法を開発(12月)</li> <li>■ 世界的なプラスチック廃棄物問題の解決に取り組む、「国際プラスチック条約企業連合(日本)」に参加(11月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・神奈川県小田原市・豊田通商が「ペットボトルの水平リサイクル」に関する協定書」を締結(11月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・京都府舞鶴市・豊田通商「ペットボトルの水平リサイクル」に関する協定書」締結(3月)</li> <li>■ 「タップ・マルシェ」、「TAPPY」の3Lペットボトルでケミカルリサイクル樹脂業界初導入(3月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・埼玉県「スギ薬局」でペットボトルの「ボトルtoボトル」水平リサイクル開始(2月)</li> <li>■ 「キリン 生茶」「キリン 生茶 ほろび煎茶」(525ml)にR100ペットボトル順次拡大(2月)</li> <li>■ キリンビバレッジ・滋賀県東海市・豊田通商「ペットボトルの水平リサイクル」に関する協定書」締結(2月)</li> </ul>	—	2021年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Science Based Targets Networkが主催するコーポレートエンゲージメントプログラムに参画(3月)</li> <li>■ 認証農園茶葉を使った「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」250ml 紙パック(LLスリム)発売(8月)</li> <li>■ 「キリングループ持続可能な生物資源利用行動計画」改訂(9月)</li> <li>■ 「自然関連財務情報開示タスクフォース」(TNFD)の“The TNFD Forum”に参画(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内ビール4工場PPAモデル導入太陽光発電電力活用</li> <li>■ キリンビール名古屋工場購入全電力100%再生可能エネルギー化</li> <li>■ キリンビール国内全工場へ大規模太陽光発電設備導入(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリン 生茶」「キリン 生茶 ほろび煎茶」に再生PET樹脂100%利用「R100ペットボトル」採用拡大・ラベルレス商品発売(3月)</li> </ul>	—
2020年	—	—	—	—	2020年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリングループ環境ビジョン2050」発表(2月)</li> <li>■ 共同書簡「Business Ambition for 1.5°C」、「Uniting Business and Governments to Recover Better」に署名(6月)</li> <li>■ 「RE100」に加盟(11月)</li> <li>■ 「キリンホールディングスグリーンボンド」発行(11月)</li> <li>■ 「SBT1.5°C」目標認証取得(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内飲料事業で、紙容器へのFSC認証紙使用率100%達成(12月)</li> <li>■ 「自動販売機用商品で「ロールラベル」採用(12月)</li> <li>■ 「午後の紅茶」「生茶」など大型PETボトル約16%軽量化(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 小学生向けSDGs副教材「SDGsスタートブック」協賛</li> <li>■ 学童・ガール/ボーイスカウト対象に「かんきょうマークはっけん手帳」展開開始(6月)</li> <li>■ 中高生対象「キリン・スクール・チャレンジ」オンライン実施開始(6月)</li> <li>■ ベトナムのコーヒー農園でのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援開始</li> </ul>	—
2019年	—	—	—	—	2019年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール岡山工場に、化石燃料から電力へのエネルギーシフトを目的にヒートポンプ導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリングループ プラスチックポリシー」を発表</li> <li>■ 28.3gの国産最軽量2L PETボトルを開発・使用開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリン 生茶デカフェ」で再生PET樹脂を100%使用した「R100ペットボトル」全面採用</li> <li>■ キリンビール・キリンビバレッジで紙容器のFSC認証紙採用100%を達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学童保育などを対象とした「環境マークプログラム」の試行を開始</li> </ul>

環境への取り組みの歴史

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2018年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「TCFD提言」への賛同を表明</li> <li>■環境報告書2019年版で、TCFD提言に基づいたシナリオ分析を進む開示を試行</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「FSCフォレスト・ウィーク2018」イベントに協賛</li> <li>■スリランカ紅茶農園で、小農園の認証取得支援・マイクロウォーターシェットの保全活動を開始</li> </ul>
2017年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「CSVコミットメント」を発表。GHG削減目標がSBTから承認</li> <li>■「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」承認取得(3月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■2020年末までに全ての紙製容器包装でFSC認証紙切り替えを目指すことを宣言</li> </ul>	—
2016年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■メルシャンの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行。キリン配下3事業会社の環境マネジメントシステムを統合</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「トロピカーナ100%」シリーズ250mlにグループで初めてFSC認証紙を採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「EARTH HOUR 2016 in Yokohama」イベントに協賛</li> </ul>
2014年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール、キリンパレヅの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行(7月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国産最軽量ビール中びんのテスト展開を開始(11月)</li> <li>■国産最軽量2L PETボトルの開発完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中高生を対象としたワークショップ「キリン・スクール・チャレンジ」開始</li> <li>■シャトー・メルシャン椀子ヴァンヤードで農研機構との共同研究で生態系調査開始</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「キリングループ長期環境ビジョン」策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■メルシャン八代工場へ蒸気再圧縮設備導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅの一部2L商品で再生PET素材の使用率を10%から50%へ向上</li> <li>■キリンパレヅで再生PET素材100%からつくる環境配慮型PETボトルを開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■スリランカ紅茶農園に対するレインフォレスト・アライアンス認証取得支援開始</li> </ul>
2012年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「キリングループ環境戦略」策定・取締役会決議(5月)</li> <li>■「キリングループ持続可能な生物資源調達ガイドライン」[行動計画]策定(12月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅ「生茶」においてPETボトルをPETボトルに戻す「ボトルtoボトル」開始</li> <li>■キリンビール国産最軽量となる新形状の6缶パック板紙を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリン横浜パレヅの庭園、ピオトープをリニューアル</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビジネスエキスパート改組・キリングループオフィス設立に伴い、キリングループオフィスに品質・環境推進部を設置(1月)</li> <li>■キリングループCO<sub>2</sub>排出SCOPE3の第三者格付け取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■協和発酵キリン宇部工場へ太陽光発電導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅ、PETボトル用樹脂ラベルの水性インク印刷技術を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅ、神奈川県と「森林再生パートナー制度」契約締結により、「キリンパレヅかながわの森」誕生</li> </ul>
2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビジネスエキスパートに品質・環境推進部を設置し、キリングループの品質・環境マネジメント統括機能を移管(3月)</li> <li>■「キリングループ生物多様性保全宣言」を策定(10月)</li> <li>■「キリングループ遺伝資源アクセス管理原則」策定</li> <li>■「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■協和発酵キリン東京リサーチパークへ太陽光発電システム導入(3月)</li> <li>■キリンパレヅ舞鶴工場へ天然ガスボイラ導入(5月)</li> <li>■キリンビールが「エコレールマーク」認定企業に選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■無糖茶で国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用</li> <li>■国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「アルカリイオンの水」に採用</li> <li>■メルシャン、国産最軽量(メルシャン調べ 2010年8月現在)となる720mlのワインびんを導入</li> <li>■メルシャン、内面に特殊加工を施すことにより酸害バリア性を向上させた「ワインのためのペットボトル」を、一部製品に採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール福岡・佐賀両支社、ブリヂストンと協働で筑後川と有明海の環境保全に売上の一部を寄付</li> </ul>

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「キリングループ低炭素企業アクションプラン」を策定。バリューチェーンで1990年比2050年に半減の目標</li> <li>■キリンホールディングスCSR推進部をCSR・品質推進部に改組。キリンビールにCSR推進部設置(3月)</li> <li>■協和発酵キリンISO14001統合認証取得(5月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農林水産省・国家プロジェクトのバイオエタノール十勝プラント竣工(5月)</li> <li>■「エコファースト推進協議会」が発足し、キリンビール社長が議長に就任(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール、6缶パック板紙にショートガセットタイプを採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅ、ボルネオ保全トラストジャパンと共同でボルネオ支援自販機設置開始</li> </ul>
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンパレヅISO14001統合認証取得(6月)</li> <li>■キリングループ環境方針改訂(10月)</li> <li>■キリンパレヅ本社ISO14001取得(12月)</li> <li>■「低炭素企業グループ」をCSRの柱として設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境負荷低減を目指し、北海道地区一部でキリンビールとサッポロビールとの共同配送を開始</li> <li>■キリンビール社「エコ・ファーストの約束」宣言により環境省「エコ・ファースト制度」の製造業第1号として設定</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ユニーグループ共同企画「麒麟淡麗(生) 緑の募金デザイン缶」売り上げ一部を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付</li> <li>■キリンビール山陰支社「三朝・キリン恵みの森」、キリンビール北陸工場「能美里山の森」活動開始</li> </ul>
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■純粋持株会社制導入に伴い会社分割、キリンホールディングス(株) 商号変更(7月)し、CSR推進部社会環境室設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール、農林水産省・国家プロジェクト「バイオ燃料地域利用モデル実証事業(北海道十勝地区)」に参画</li> <li>■環境負荷低減、コスト削減を目指してキリンビール、キリンパレヅとサントリー社で資材調達協力について合意(缶蓋規格共有、段ボール原紙共同調達)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンファーマ高崎工場「水源の森」活動開始</li> <li>■「クールビス・オブ・ザ・イヤー」(クールビス推進協議会主催)の「クールビスエグゼクティブ部門」をキリンホールディングス加藤社長受賞</li> </ul>
2006年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■太陽光発電導入(キリンビール福岡工場 20kW、広島ブルワリー 10kW、横浜工場 20kW、キリンパレヅ湘南工場 60kW)</li> <li>■オンサイト事業による天然ガスボイラシステムとNAS電池導入(キリンビール取手工場)</li> <li>■キリンビール、「横浜市風力発電事業」への協賛</li> <li>■キリンパレヅ「エコレール」認定企業に選定</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール福岡工場「水源の森」活動開始によりビール全工場の活動となる</li> <li>■キリンディステリャー御殿場蒸溜所「水源の森」活動開始</li> </ul>
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリン社の主要4研究所でEA21を取得</li> <li>■ISO14001グループ会社3事業所で取得</li> <li>■CSR・CC本部発足に伴い社会コミュニケーショングループ社会環境室に組織改変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール神戸工場へ太陽光発電システム導入(20kW)</li> <li>■環境省が展開している地球温暖化防止「国民運動」「チーム・マイナス6%」に賛同し、「クールビス」「ウォームビス」などのCO<sub>2</sub>削減に向けた活動に取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国産最軽量のPETボトル「ペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール千歳工場、北陸工場、名古屋工場「水源の森」活動開始</li> <li>■キリンビール、株主優待「エコジロー募金」を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付</li> </ul>
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■武田キリン社にてISO14001認証取得</li> <li>■キリンビール首都圏地区本部、横浜アリーナ、キリンダイニングにてEA21(Eco Action21)認証取得</li> <li>■主要物流会社計15社にてグリーン経営システム(交通エコロジー・モビリティ財団)認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■バイオガスと都市ガス混焼ガスエンジン式コージェネレーション設備の導入(キリンビール横浜工場)</li> <li>■キリンビール医薬部門の営業車を中心に一部ハイブリッド車導入開始</li> <li>■ビール工場で使用する燃料を重油から都市ガスへ転換(キリンビール千歳工場)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール、ビール・発泡酒・チューハイ・清涼発泡飲料の250ml缶・350ml缶・500ml缶全商品にコーナーカット cartonを採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キリンビール滋賀工場、取手工場「水源の森」活動開始</li> </ul>

環境への取り組みの歴史

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2003年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール、第12回地球環境大賞経済産業大臣賞受賞</li> <li>■ キリンビール、2004年中期計画策定に環境保全を全社の重点課題の1つと設定</li> <li>■ キリンビール新川本社ISO14001更新審査において企画管理部門に範囲拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ バイオガスを利用した新型燃料電池の実用化(キリンビール取手工場)</li> <li>■ キリンビール、営業車の軽自動車化開始</li> <li>■ 協和発酵キリン全社でゼロエミッション達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール、軽量リターナブル大びん100%切替完了(6月)</li> <li>■ グループダンノンと共同開発した「ペコロジー®ボトル」を「キリンアルカリイオン水」2L PETボトルリニューアル時に採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール栃木工場「水源の森」活動開始</li> <li>■ 日本サッカー協会と共に「フリースタジアム」活動開始</li> </ul>
2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール地区本部での環境マネジメントシステム導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ バイオガス・コージェネレーション設備の導入(キリンビール神戸工場)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製缶時に環境負荷の低いaTULC缶を「キリン極生」に採用</li> <li>■ キリンビール、リターナブル中びんをこれまでのプリントびんからエンボス加工に順次切り替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール岡山工場「水源の森」活動開始</li> <li>■ キリンビール取手工場、岡山工場、滋賀工場ピオトープを造成</li> </ul>
2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール本社・高崎医薬工場・各研究所で環境会計導入</li> <li>■ 「キリンビールにおける環境マネジメントの実践」(日科技連出版社)を出版</li> <li>■ キリンビール高崎医薬工場ISO14001の認証取得(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 副産物の再資源化用途開発であるビール酵母食物繊維「BYC」を発売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール、リターナブル中びんをこれまでのプリントびんからエンボス加工に順次切り替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール仙台工場「水源の森」活動開始</li> <li>■ キリンビール栃木工場ピオトープを造成</li> <li>■ キリンビバレッジ「かながわ水源の森」パートナー参加</li> </ul>
1923年～2000年の取り組みはキリンビールのみです。				
2000年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全ビール工場で環境会計を導入</li> <li>■ 社内向け教育ビデオ「持続可能な社会を目指して～キリンビールの環境対策」を制作</li> <li>■ 本社でISO14001の認証取得(12月)</li> <li>■ キリンビバレッジ湘南工場ISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一部の支社で再資源化率100%を達成</li> <li>■ 副産物の再資源化新規用途であるビール酵母細胞壁コーティング剤「イーストラップ」、潰瘍性大腸炎患者用食品「GBF」発売開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 容器包装リサイクル法完全施行によりガラスびんに加えて紙・プラスチック容器包装の再商品化委託料を申請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 神戸工場「水源の森」活動開始</li> <li>■ 仙台工場ピオトープを造成</li> </ul>
1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリングループの「環境方針」(環境理念・基本方針)を改定(8月)</li> <li>■ 「グリーン調達基本方針」(7月)、「グリーン調達指針」(11月)を制定</li> <li>■ 全ビール工場(12工場)でISO14001の認証を取得</li> <li>■ 全ビール工場で環境会計システム導入に向けての基準作成</li> <li>■ キリンビバレッジ舞鶴工場ISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全ビール工場で再資源化率100%を維持</li> <li>■ 本社で再資源化率100%を達成</li> <li>■ 燃料電池の導入(栃木工場3月設置)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 軽量リターナブル大びんを全国展開(4月)</li> <li>■ LCA手法活用した容器開発(クリアリユース)</li> <li>■ 容器間比較研究会に参加</li> <li>■ リターナブル小びんのスリム化実施(従来品より10%軽量化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生向け環境教育ビデオ「彼と彼女とごみの関係～資源循環型社会を目指して～」を制作・配布(5月)</li> <li>■ 神奈川県「かながわ水源の森づくり」パートナー第1号として参加し、横浜工場「水源の森」活動開始</li> <li>■ 屋久島ゼロ・エミッション活動に賛同・支援・参加</li> <li>■ ビールびんリサイクルパンフレットを作成・活用</li> </ul>
1998年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール工場のCO<sub>2</sub>排出削減目標を設定(2010年に総量・原単位を1990年比マイナス25%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール業界で初めて、全ビール工場再資源化率100%を達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「環境に適応した包装・容器設計ガイドライン」を見直し「環境に適応した容器包装等設計指針」として改定(6月)</li> <li>■ 再資源化対応のガラスびんの着色技術を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビデオ「キリンビールの環境対策」制作・配布</li> </ul>
1997年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 北陸工場が国内の食品業界で初めてISO14001の認証を取得(3月)</li> <li>■ 「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」が、環境報告書のコンテストである第1回環境アクションプラン大賞の最優秀賞である環境庁長官賞を受賞(6月)</li> <li>■ 1996年度の環境監査結果を基に、パンフレット「1997年度版キリンビール環境報告書」を制作・社内外に配布(9月)(以降毎年度版を制作)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール粕を利用したキノコの菌床素材「ゲンキノコ」を開発・販売</li> <li>■ ビール粕の分画プラントを滋賀工場内に設置</li> <li>■ グリーン購入を開始</li> <li>■ CO<sub>2</sub>の排出原単位のビール業界目標を設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「容器包装リサイクル法」の本格施行に伴い、ガラスびんについて再商品化委託料を申請(大半のリターナブルびんは自主回収ルートの認定を取得)</li> <li>■ 材質を紙に変更した6缶パックを導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生・中学生向け環境教育ビデオ「未来からの電子メール～環境に環境はない」を制作・配布(7月)</li> <li>■ 神戸工場ピオトープを造成</li> </ul>

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
1996年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1995年度の環境監査結果を第3回「環境報告書」にまとめ(10月)、それを基にパンフレット「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」を制作・社内外に配布(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ LCA手法によりビール製造関連のCO<sub>2</sub>など温室効果ガスの排出負荷をまとめ公表</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中学生向け環境教育ビデオ「中学生のゴミ体験」を制作・配布(3月)</li> <li>■ ビールびんリサイクル広告を実施(4回シリーズ)</li> </ul>
1995年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第4回地球環境大賞の最優秀賞である「地球環境大賞グランプリ」を受賞(4月)</li> <li>■ グループ会社を含めた環境監査の結果を第2回「環境報告書」にまとめる(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食品業界で初めて燃料電池のフィールドテストを開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PETボトルのリサイクルを容易にするためベースカップ付きボトル・耐熱圧自立型PETボトル(一体型)を採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビールびんリサイクル広告を実施(5回シリーズ)</li> </ul>
1994年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリンビール環境管理ガイドライン」を「キリンビール環境ガイドライン」に改訂</li> <li>■ 1993年度環境監査結果を「環境報告書」にまとめる(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 横浜工場他計4工場が年間を通して副産物再資源化率100%を達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール用アルミ缶に204径缶(209径缶より26%、206径缶より18%軽量)を採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キリンビール・キリンビバレッジ共同で、小学生向け環境教育ビデオ「あきらとかん太のごみ冒険」を制作・配布(4月)</li> <li>■ ビールびんリサイクル広告を実施(6回シリーズ)</li> </ul>
1993年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各事業所ごとに「環境マネジメントシステム」を構築し、内部環境監査を実施</li> <li>■ 経営指針の社会貢献に「地球環境への配慮」を明示(10月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 軽量リターナブル大びん(従来品より21%軽い)を開発、北海道・函館で試験導入(5-6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栃木工場・北陸工場環境保全林(ふるさとの森)として植樹(8月)</li> </ul>
1992年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「キリンビール環境管理ガイドライン」制定(12月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「環境に適応した包装・容器設計ガイドライン」制定(12月)</li> </ul>	—
1991年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会環境部を設置(7月)</li> <li>■ 「キリンビール環境問題の取り組みの基本方針」制定(12月)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 缶ビールにアルミ・スチールの缶材表示を開始(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生向け環境教育ビデオ「裁かれるのは誰だ～ゴミ法廷」を制作・配布(11月)</li> </ul>
1990年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ USAB嫌気性排水処理設備を千歳工場に導入(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 缶ビールのタブ散乱防止のため、リングプルタイプよりステイオンタブ切替え開始(4月)</li> </ul>	—
1989年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール工場の排水処理研究で日本醸造協会技術賞を受賞(9月)</li> </ul>	—	—
1985年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール用アルミ缶に206径缶を採用</li> </ul>	—
1984年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 廃棄プラスチック製通箱を原料としたプラスチック製パレットを開発・導入</li> </ul>	—
1982年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホットパック製品窒素充填による缶薄肉化</li> </ul>	—
1975年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本社製造部に環境整備担当(後に環境整備課に改組)を設置</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール用アルミ缶に209径缶を採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境美化ラジオキャンペーン「ちょっと気になるこの日本」を開始(～1980年)</li> </ul>
1974年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全工場・研究所に環境整備室を設置(93年に環境室に改組)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビールびんとプラスチック製通箱の容器保証金制度を開始</li> </ul>	—
1973年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 分別収集・廃棄物減量活動を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 清涼飲料P箱全国・全品種で導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビール工場で空き缶回収などの環境美化活動を開始</li> </ul>
1972年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 清涼飲料容器保証金制度実施</li> </ul>	—
1966年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 活性汚泥法による排水処理設備の本格的導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 横浜・川崎市への出荷をビールP箱に全面切り替え</li> </ul>	—
1965年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プラスチック製ビール通い箱(P箱)を開発し、横浜・川崎市で市場テスト</li> </ul>	—
1923年	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 排水処理設備を導入(神崎工場後の尼崎工場)</li> </ul>	—	—

# 外部表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2024年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(6年連続)	CDP
2024年	キリンホールディングス	第5回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門	金賞(3回目)	環境省
2024年	キリンホールディングス	CDP水セキュリティ	アリスト(8回連続)	CDP
2024年	キリンホールディングス	CDP気候変動	A-	CDP
2024年	キリンホールディングス	第5回「日経SDGs経営調査」	最高位(5年連続)	環境省
2023年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(5年連続)	環境省
2023年	キリンホールディングス	国内食品製造事業者の持続可能な原材料調達優良企業	官房長賞	農林水産省
2023年	キリンホールディングス	第4回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門	特別賞	環境省
2022年	キリンホールディングス	第10回環境省グッドライフアワード	10周年特別賞 生物多様性賞	環境省
2022年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト(4年連続)	CDP
2022年	キリンホールディングス	水セキュリティ	アリスト(7年連続)	CDP
2022年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(4年連続)	CDP
2021年	メルシャン	令和3年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰	-	環境省
2021年	キリンホールディングス	第3回日経SDGs経営大賞	最高位	日経新聞社
2021年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト(3年連続)	CDP
2021年	キリンホールディングス	水セキュリティ	アリスト(6年連続)	CDP
2021年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(3年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	ESGファイナンス・アワード・ジャパン環境サステナブル企業部門	金賞(2年連続)	環境省
2020年	キリンホールディングス	第2回日経SDGs経営大賞	「環境価値賞」最高位	日経新聞社
2020年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト(2年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	CDP水セキュリティ	アリスト(5年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	ESGファイナンス・アワード・ジャパン環境サステナブル企業部門	金賞	環境省
2019年	キリンホールディングス	CDP水セキュリティ	アリスト(4年連続)	CDP
2019年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト	CDP
2019年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(2年連続)	CDP
2018年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード	CDP
2018年	キリンホールディングス	平成29年度「青少年の体験活動推進企業表彰」	審査委員会奨励賞(大企業部門)	文部科学省
2018年	キリンホールディングス	第8回「キャリア教育アワード」	奨励賞	経済産業省
2018年	キリンホールディングス	CDPウォーターセキュリティ	アリスト(3年連続)	CDP

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2018年	キリンホールディングス	CDP気候変動	A-	CDP
2017年	キリンホールディングス	第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト	審査員特別賞	いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会
2017年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト(4年連続)	CDP
2017年	キリンホールディングス	CDP水	アリスト(2年連続)	CDP
2017年	キリンホールディングス	第26回地球環境大賞	フジサンケイグループ賞	フジサンケイグループ
2017年	キリンビール(共同配送)	第18回物流環境大賞	物流環境大賞	一般社団法人日本物流団体連合会
2017年	キリンビール(共同配送)	平成29年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰	国土交通大臣表彰	国土交通省
2016年	キリンホールディングス	CDP気候変動	アリスト(3年連続)	CDP
2016年	キリンホールディングス	CDP水	アリスト	CDP
2016年	キリンホールディングス	企業の温暖化対策ランキング食品業種	1位	世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン)
2016年	キリンホールディングス	ベスト長期目標賞		低炭素杯2016
2015年	キリンホールディングス	CDP気候変動	CDLI、アリスト	CDP
2014年	キリンホールディングス	CDP気候変動	CDLIおよびCPLI、ピバレッジ部門でアリスト	CDP
2014年	キリンホールディングス	生物多様性勝手にアワード	百獣の王賞(最高位)	世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン)
2012年	キリンホールディングス	CDP Japan500	CDLI	CDP
2011年	キリンホールディングス	CDP Japan500	1位獲得	CDP
2010年	キリンホールディングス	CDP Global500	日本2位	CDP
2007年	キリンホールディングス	クールビズエグゼクティブ賞		クールビズ推進協議会

## 環境報告書の表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2020]	第24回 環境コミュニケーション大賞	気候変動報告大賞 (環境大臣賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2020年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2019]	第23回 環境コミュニケーション大賞	審査委員会特別優秀賞	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2018年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2018]	第22回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2017年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2017]	第21回 環境コミュニケーション大賞	地球温暖化対策報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2016年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2016]	第20回 環境コミュニケーション大賞	生物多様性報告特別優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2015年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2015]	第19回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2014年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2014]	第18回 環境コミュニケーション大賞	環境報告大賞 (環境大臣賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2013年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2013]	第17回 環境コミュニケーション大賞	地球温暖化対策報告 大賞(環境大臣賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2011年	サステナビリティレポート [キリングループサステナビリティ レポート 2011]	第15回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2005年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2004年版]	第8回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2004年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2003年版]	第7回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2003年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版]	第6回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2003年	ホームページ [キリンビールの環境への取り組み]	第3回みんなで選ぶ エコWEB大賞	特別審査員賞	エコロジションフォニー
2003年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版]	第6回環境レポート大賞	優秀賞 (環境報告マイスター賞)	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2002年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版]	第5回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2001年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版]	第5回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム
2001年	環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書]	第4回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2000年	環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書]	第4回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2000年	環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書]	第3回環境報告書賞	優良賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
1999年	環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書]	第3回環境レポート大賞	大賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
1999年	環境報告書 [1998年版キリンビール環境報告書]	第2回環境報告書賞	優良賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
1998年	環境報告書 [1997年版キリンビール環境報告書]	第1回環境報告書賞	優秀賞 特別賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
1997年	環境報告書 [1996年度版キリンビール環境問題への 取り組み]	環境アクションプラン大賞	環境庁長官賞	(社)全国環境保全推進連合

容器包装での表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022年	[生茶] ブランドの新ペットボトル [グリーンエコロジーボトル]	2022日本パッケージングコンテ スト	包装技術賞(適正包装賞)	公益社団法人 日本包装技術協 会
2022年	ワイン用軽量PETボトル開発	第46回木下賞	包装技術賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2022年	ハートランドビール 330ml・500mlびん	第18回ガラスびんアワード 2022	特別賞	日本ガラスびん協会
2021年	PETボトル新規薄膜形成技術	ワールドスターコンテスト2021	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2020年	PETボトルの新規薄膜形成技術	第44回木下賞	研究開発部門	公益社団法人日本包装技術協会

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2020年	R100ペットボトル	ワールドスターコンテスト2020	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2019年	R100ペットボトル	2019日本パッケージングコンテ スト	ジャパンスター (日本包装技術 協会会長賞)	公益社団法人 日本包装技術協会
2018年	国産最軽量ビール中びん (リターナブル)	ワールドスター2018コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2018年	国産最軽量ビール中びん (リターナブル)	第14回ガラスびんアワード	機能・環境賞	日本ガラスびん協会
2017年	国産最軽量アルミ缶	第41回木下賞	改善合理化部門	公益社団法人 日本包装技術協会
2017年	国産最軽量 2L PETボトル	ワールドスター2016コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2017年	国産最軽量 2L PETボトル	アジアスター2015コンテスト	アジアスター賞	アジア包装連盟
2016年	NEWペコロジーボトル	第40回木下賞	改善合理化部門	公益社団法人 日本包装技術協会
2015年	国産最軽量 2L PETボトル	ワールドスター2015コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	2013日本パッケージングコンテ スト (第35回)	社団法人 日本グラフィックデザ イナール協会賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	ワールドスター2013コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	アジアスター2013コンテスト	アジアスター賞	アジア包装連盟
2012年	GRAND KIRIN	ガラスびんアワード2012	機能優秀賞	日本ガラスびん協会
2010年	NEWペコロジーボトル	サステナビリティ賞	金賞	世界包装機構 (WPO)
2010年	NEWペコロジーボトル	ワールドスター2010コンテスト	ワールドスター賞 (飲料部門)	世界包装機構 (WPO)
2010年	NEWペコロジーボトル	アジアスター2010コンテスト	アジアスター賞 (Eco/パッケー ジ部門)	アジア包装連盟
2010年	NEWペコロジーボトル	2010日本パッケージングコンテ スト	適正包装賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2008年	焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ	第47回ジャパンパッケージング コンペティション	経済産業大臣賞(最高位)	社団法人 日本印刷産業連合会
2007年	ビール用軽量リターナブル大びん	平成18年度 容器包装3R推進	環境大臣賞	環境省
2007年	焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ	日本パッケージングコンテスト	グッドパッケージング賞(飲料 包装部) 入選	社団法人 日本包装技術協会
2007年	麒麟麦焼酎ピュアブルー	第46回ジャパンパッケージング コンペティション	経済産業大臣賞(最高位)	社団法人 日本印刷産業連合会
2005年	キリン・キリンビバレッジ軽量2L PETボトルの開発	第29回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2003年	「キリン極生」による低環境負荷 のアルミ缶 (aTULC) の実用化	第27回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2002年	「キリンチューハイ氷結果汁」(ア ルミダイヤカット缶) の商品化	第26回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2002年	「キリン極生」	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2001年	KB (キリンケービー)	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2000年	クリアブルー	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
1994年	軽量リターナブルびんの開発	第18回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
1987年	ビールラベルの品質改善に伴う紙 蒸着ラベルの利用	第11回木下賞	改善・合理化部門	社団法人 日本包装技術協会



環境広告表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	ecomom 2020年冬号	日経BP Marketing Awards 2021	銀賞	日経BP
2012年	キリンビール出展ブース	エコ&デザインブース大賞	最優秀賞	エコプロダクツ2012
2006年	エコジロー環境広告 (エコどこ、エコここ)	第36回フジサンケイグループ広告大賞	雑誌優秀賞	フジサンケイグループ
2005年	エコジロー環境広告	オレンジページ広告大賞	審査員特別賞	株式会社 オレンジページ
2004年	ホームページ (環境への取り組み)	環境goo大賞	優秀賞—環境教育	環境goo
2003年	ホームページ (環境への取り組み)	環境goo大賞	優秀賞—総合	環境goo
2003年	エコジロー環境広告	環境広告コンクール	雑誌部門 環境大臣賞	NPO法人地域交流センター／日本経済新聞社
2003年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2003年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2003年	エコジローの環境テーブル	東京インタラクティブアワード	ビヨンド広告部門 入賞	インターネット広告推進協議会
2002年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞 新聞広告部門 銅賞	社団法人 日本広告主協会
2001年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 銀賞	社団法人 日本広告主協会
2000年	エコジロー環境広告	環境広告コンクール	大賞	NPO法人地域交流センター／日本経済新聞社
2000年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2000年	エコジロー環境広告	日経広告賞	優秀賞	日本経済新聞社
2000年	エコジロー環境広告	日本雑誌広告賞	銀賞	社団法人 日本雑誌広告協会

事業所表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2023年	上海協和アミノ酸有限公司	節水型企業再評価	表彰	上海市
2023年	上海協和アミノ酸有限公司	工業用水再利用事例評価会	優秀賞	上海市
2021年	メルシャン八代工場	第29回くまもと環境賞	くまもと循環型社会賞	熊本県
2018年	協和キリン高崎工場	群馬県環境賞	環境功績賞	群馬県
2017年	キリン パッケージング技術研究所	平成29年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
2016年	キリンビール	容器包装簡素化大賞2016	特別賞	北海道容器包装の簡素化を進める連絡会
2016年	メルシャン藤沢工場	海岸美化活動表彰	地域における永年の海外美化活動への貢献	公益財団法人 かながわ海岸美化財団

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2014年	ライオン	ニュージラント持続可能なビジネスネットワーク賞	エネルギー管理賞	サステナブルビジネスネットワーク
2014年	ベトナムキリンビバレッジ	ピンズン省環境表彰	—	ピンズン省
2013年	信州ビバレッジ	環境保全対策優良事業所表彰	—	長野県
2013年	信州ビバレッジ	信州豊かな環境づくり県民会議表彰	—	長野県
2013年	ベトナムキリンビバレッジ	ピンズン省環境表彰	3位	ピンズン省
2012年	キリンビール 横浜工場	かながわ地球環境賞	かながわ地球環境保全推進会表彰	かながわ地球環境保全推進会、神奈川県
2010年	キリンビール 滋賀工場	優良事業所環境パートナーシップ部門	公益社団法人 滋賀県環境保全協会会長表彰	公益社団法人 滋賀県環境保全協会
2009年	小岩井乳業 小岩井工場	食品産業CO <sub>2</sub> 削減大賞	優良賞	(株)日本総合研究所
2009年	キリンビール	ゼロエミッション啓発	感謝状	国連大学 ゼロエミッションフォーラム
2009年	キリンビール 神戸工場	エネルギー環境教育情報センター 広報施設表彰	運営委員長奨励賞	財団法人社会経済生産性本部 エネルギー環境教育財団センター
2009年	キリンビール 岡山工場	平成20年度岡山市事業系ごみ減量化・資源化推進優良事業者表彰	最優秀賞	岡山市
2008年	キリンビール 横浜工場	平成20年横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市資源循環局事業系対策課
2008年	キリンビール 神戸工場	第28回緑の都市賞	都市緑化基金会長賞	財団法人都市緑化基金
2008年	キリンビール 仙台工場	海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰	国土交通大臣賞	国土交通省
2008年	キリンビール 取手工場	平成20年「地球にやさしい企業表彰」	環境マネジメント	茨城県
2008年	キリンビール 北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	石川県知事賞	石川県
2008年	キリンビール 神戸工場	平成19年度兵庫県環境にやさしい事業者賞	優秀賞	兵庫県環境政策課
2007年	キリンビール 横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2007年	キリンビール 神戸工場	地球温暖化防止活動 知恵の環づくり特別賞	—	兵庫県
2007年	キリンビール 仙台工場	自然エネルギー等導入促進部門大賞	宮城県知事表彰	宮城県
2007年	キリンビール 福岡工場	エコ実践者活動	保険福祉環境事務所長表彰	福岡県
2006年	キリンビール 神戸工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	—	環境省地球環境局
2006年	キリンビール 福岡工場	高圧ガス保安	経済産業大臣	高圧ガス保安協会
2006年	キリンビール 横浜工場	環境保全奨励賞	コージェネレーションシステム	日本コージェネレーションシステム

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2005年	麒麟ビール 横浜工場	子ども省エネ大作戦2005	横浜市主催「子ども省エネ大作戦2005」への協力	特定非営利活動法人 国連WFP協会
2005年	麒麟ビール 横浜工場	環境管理事業所認定	横浜市より環境管理事業所として認定	横浜市環境創造局長
2003年	麒麟ビール 岡山工場	環境おかやま大賞	環境おかやま大賞	岡山県
2003年	麒麟ビール 神戸工場	神戸市環境功労賞	神戸市環境功労賞	神戸市
2003年	麒麟ビール	第12回地球環境大賞	経済産業大臣賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン)
2001年	麒麟ビール 北陸工場	平成13年度いしかわグリーン企業	知事表彰	石川県
2001年	麒麟ビール 横浜工場	かながわ地球環境賞	神奈川県知事表彰	神奈川県、 かながわ地球環境保全推進会議
1997年	麒麟ビール	第6回日食・環境資源協力賞	環境資源協力賞	日本食糧新聞社
1995年	麒麟ビール	第4回地球環境大賞	大賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン)

緑化表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022年	麒麟ビール滋賀工場工場	琵琶湖森林づくりパートナー協定	水源の森づくりへの貢献に対して感謝状	滋賀県
2020年	協和発酵バイオ山口事業所	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2019年	麒麟ビール横浜工場	第9回横浜・人・まち・デザイン賞	まちなみ景観部門	横浜市
2019年	麒麟ビール横浜工場	全国みどりの工場大賞	関東経済産業局長賞	日本緑化センター
2019年	麒麟ビール横浜工場	第18回 屋上・壁面緑化技術コンクール	国土交通大臣賞	都市緑化機構
2018年	麒麟ビール横浜工場	第37回 工場緑化推進全国大会	日本緑化センター会長賞	日本緑化センター
2018年	麒麟ビール神戸工場	第12回「みどりの式典」	平成30年度緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞	内閣府
2018年	協和発酵バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2016年	麒麟ビール横浜工場	みどりの社会貢献賞	第4回みどりの社会貢献賞	公益財団法人都市緑化機構
2016年	麒麟ビール横浜工場	第36回緑の都市賞	国土交通大臣賞	公益財団法人都市緑化機構
2016年	協和発酵バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2014年	協和発酵キリン富士工場	長泉町環境美化功労者表彰	団体の部	長泉町
2014年	協和発酵バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2014年	協和発酵バイオ山口事業所宇部	宇部市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	宇部市
2013年	麒麟ビール 仙台工場	緑綬褒章	地域における永年の 緑化美化活動	—
2011年	キリンディスティラリー 富士御殿場蒸溜所	平成23年度緑化推進運動功労者	内閣総理大臣表彰	緑化推進連絡会議
2009年	協和発酵キリン高崎工場	緑化優良工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2009年	麒麟ビール神戸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2009年	麒麟ビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2008年	麒麟ビール北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	企業部門 県知事賞	石川県
2007年	麒麟ビール福岡工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2007年	麒麟ビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2007年	麒麟ビール北陸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2006年	麒麟ビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2006年	麒麟ビール滋賀工場	平成18年度緑化優良工場表彰	会長賞	(財)日本緑化センター
2005年	麒麟ビール北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2004年	麒麟ビール神戸工場	平成16年度緑化優良工場 近畿経済産業局長表彰	緑化優良工場	(財)日本緑化センター
2004年	麒麟ビール北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部奨励賞	松任市
2004年	麒麟ビール北陸工場	緑化優良表彰	中部経済産業局長賞	中部経済産業局
2003年	麒麟ビール北陸工場	平成15年度緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2003年	麒麟ビール北陸工場	平成15年度緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	松任市
2001年	麒麟ビール北陸工場	平成13年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2001年	麒麟ビール北陸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2001年	キリン・シーグラム御殿場工場 (現キリンディスティラリー 富士 御殿場蒸溜所)	緑化優良工場	緑化優良工場等経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2000年	麒麟ビール神戸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
1999年	麒麟ビール福岡工場	水源の森基金	感謝状	(財)福岡県水源の森基金
1999年	麒麟ビール北陸工場	平成11年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
1998年	麒麟ビール北陸工場	緑化優良表彰工場	会長奨励賞	(財)日本緑化センター
1998年	麒麟ビール栃木工場	緑化優良表彰工場	通商産業局長賞	(財)日本緑化センター

リサイクル表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	キリンビール横浜工場	令和2年度横浜環境行動賞 [ヨコハマ3R夢]	3R活動優良事業所	横浜市
2019年	キリンビール横浜工場	平成31年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2018年	キリンビール横浜工場	平成30年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2017年	キリンビール横浜工場	平成29年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2016年	キリンビール横浜工場	平成28年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2015年	キリンビール横浜工場	平成27年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2014年	キリンビール横浜工場	平成26年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2013年	キリンビール横浜工場	平成25年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2011年	キリンビール名古屋工場	平成23年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2011年	メルシャン	平成23年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2010年	キリンビール横浜工場	平成22年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2009年	キリンビール岡山工場	平成21年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2009年	キリンビール横浜工場	平成21年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2008年	キリンビール横浜工場	平成20年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2008年	キリンビール神戸工場	平成21年度3R推進功労者等表彰	財務大臣賞	3R推進協議会
2007年	キリンビール横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2006年	キリンビール取手工場	茨城県リサイクル優良事業所	茨城県知事	茨城県 廃棄物再資源化指導センター
2005年	キリンビール岡山工場	エコ事業所認定工場 (ゼロエミッション部門)	—	岡山県
2002年	キリンビール滋賀工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
2001年	キリンビール神戸工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
2001年	キリンビール横浜工場	神奈川県廃棄物自主管理調整会議	優秀賞	神奈川県、横浜市、川崎市、 横須賀市
1998年	キリンビール	第27回食品産業功労賞	資材・機械・設備部門	食品産業新聞社

省エネルギー表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022年	キリンビール北海道千歳工場	北海道省エネルギー・新エネルギー 促進大賞 新エネルギー部門	奨励賞	北海道庁
2022年	協和キリン宇部工場	山口県地球温暖化対策	優良事業場	山口県
2022年	信州ビバレッジ	事業活動温暖化対策計画書制度	優良事業者表彰	長野県環境部ゼロカーボン推進室
2022年	Thai Kyowa Biotechnologies	Green Industry	level 3	Industry Ministry
2017年	キリンビール仙台工場	平成28年度エネルギー管理優良事 業者東北経済産業局長表彰	熱交換器およびヒートポンプ導 入により、排水原水の昇温に必 要な蒸気使用量を削減、高効率 照明への更新により電力使用 量を削減	東北経済産業局
2016年	信州ビバレッジ	平成27年度エネルギー管理優良事 業所等中部地方電気使用合理化委 員長表彰	電力および熱利用設備の運用 見直しによるエネルギー削減	中部地方電気使用合理化委員会
2013年	キリン	平成25年度省エネ大賞	資源エネルギー庁長官賞	省エネルギーセンター
2010年	小岩井乳業 那須工場	平成21年度 エネルギー管理功績者	関東経済産業局賞	関東経済産業局
2010年	キリンビール名古屋工場	エネルギー管理優良事業者	中部経済産業局長表彰	中部地方電気使用合理化委員会
2009年	キリンビール滋賀工場	平成21年度優良ボイラー技士 ボイラー協会会長表彰	優れたボイラー技師として、永 年に亘る業務に対する功績の 評価	日本ボイラー協会
2009年	小岩井乳業那須工場	平成20年度関東地区 電気使用合理化委員会委員長賞	功績者賞	関東地区電気使用合理化委員会
2008年	キリンビール岡山工場	平成20年 省エネルギー優秀事例全国大会	中国経済産業局長賞	財団法人 省エネルギーセンター
2006年	キリンビール仙台工場	平成18年度優良ボイラー技士 ボイラー協会会長表彰	優れたボイラー技師として、永 年に亘る業務に対する功績の 評価	日本ボイラー協会
2006年	キリンビール北陸工場	エネルギー管理(電気部門)表彰	—	中部経済産業局
2006年	キリンビール神戸工場	ひょうごバイオマスecoモデル登録 証授与賞	ビール工場の有機物性排水処 理における発生バイオガスによ るコージェネレーション	兵庫県農林水産部農政企画局
2005年	キリンビール北陸工場	省エネルギー優秀事例	会長賞	省エネルギーセンター
2004年	キリンビール神戸工場	省エネルギー実施優秀事例 資源エネルギー庁長官賞	消化ガスコージェネレーション システムと生物脱硝システムに よる省エネ対策	省エネルギーセンター

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2004年	キリンビール北陸工場	ウェステック大賞2004	事業活動部門賞	ウェステック実行委員会
2004年	キリンビール北陸工場	省エネルギー優秀事例	排水処理プロフとブライン冷凍機の電力量削減の取り組み	省エネルギーセンター
2003年	キリンビール千歳工場	エネルギー電気管理優良工場	資源エネルギー庁長官賞	経済産業省
2003年	キリンビール神戸工場	省エネルギーセンター優良賞	全員参加による省エネ推進	省エネルギーセンター
2002年	キリンビール神戸工場	第3回あおぞら大賞	兵庫県大気環境保全連絡協議会会長賞	兵庫県大気環境保全連絡協議会
2002年	キリンビール神戸工場	平成13年度エネルギー管理優良工場	近畿経済産業局長表彰	近畿経済産業局
2001年	キリンビール神戸工場	エネルギー実施優秀事例グループ	局長賞	—
2001年	キリンビール神戸工場	エネルギー管理優良工場(熱部門)	局長賞	省エネルギーセンター 近畿経済産業局
2000年	キリンビール岡山工場	エネルギー管理優良工場(熱部門)	局長表彰	中国通産局
2000年	キリンビール岡山工場	エネルギー管理功労者(電気部門)	局長表彰	中国通産局
2000年	キリンビール千歳工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業局長賞	通商産業省
2000年	キリンビール北陸工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業大臣賞	通商産業省
1998年	キリンビール京都工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業局長賞	通商産業省

地球温暖化防止表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2017年	キリンビール滋賀工場	平成29年度滋賀県低炭素社会づくり賞	—	滋賀県
2013年	キリンビール横浜工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	環境教育活動部門	環境省
2011年	キリンビバレッジ湘南工場	平成23年度神奈川県環境保全(大気・水・土壌関係)功労者表彰	—	神奈川県
2010年	キリンビール横浜工場	第一回かながわ地球温暖化防止対策大賞	温室効果ガス削減実績部門	神奈川県
2009年	協和発酵バイオ山口事業所(伊部)	山口県環境生活功労者知事表彰(地球温暖化対策優良事業所)	知事表彰	山口県
2009年	キリンビール神戸工場	エネルギー環境教育情報センター表彰	運営委員長奨励賞	(財)社会経済生産性本部・エネルギー環境教育情報センター
2009年	キリンビール福岡工場	平成20年度地球温暖化防止環境大臣表彰	—	環境省
2008年	キリンビール神戸工場	地球温暖化防止活動知恵の環づくり表彰	敢闘賞	兵庫県地球温暖化防止活動推進センター・ひょうご環境創造協会
2006年	キリンビール神戸工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	温室効果ガスの排出低減に対して	環境省地球環境局
1998年	キリンビール生産部門	環境保全功労者等表彰	地球温暖化防止部門	環境庁



# 環境データ算定方法

## 水リスク評価対象事業所内訳

水リスク評価結果については、P.17 レジリエンス評価をご参照ください。 ※2024年6月時点で閉鎖している事業所も含まれます。

会社	数	国	拠点
キリンビール	9	日本	北海道千歳
			仙台
			取手
			横浜
			名古屋
			滋賀*
キリンディスティラリー	1	日本	神戸
			岡山
メルシャン	6	日本	福岡
			御殿場
			八代
			勝沼ワイナリー
			藤沢
キリンビバレッジ	1	日本	桔梗ヶ原ワイナリー
			梶子ワイナリー
信州ビバレッジ	1	日本	防府
小岩井乳業	2	日本	湘南*
			小岩井
協和麒麟	4	日本	東京
			高崎
			富士
協和麒麟	1	中国	宇部
			東京
協和発酵バイオ	3	日本	協和麒麟(中国)製菓
			山口事務所(防府)
BioKyowa	1	米国	つくば
			土浦

会社	数	国	拠点
Kyowa Kirin US	1	米国	
協和ファーマケミカル	1	日本	本社
上海協和アミノ酸	1	中国	
THAI KYOWA BIOTECHNOLOGIES CO., LTD.	1	タイ	
麒麟啤酒(珠海)	1	中国	
インターフード	1	ベトナム	
ベトナムキリンビバレッジ	1	ベトナム	
フォアローゼズディスティラリー	2	米国	Lawrenceburg
			Cox's Creek
ライオン	9	オーストラリア	Castlemaine Perkins
			James Boag Brewery
			Little Creatures Brewery O'Connor
			Little Creatures Brewery
			Fremantle
			Tooheys Brewery
			Little Creatures Brewery Geelong
			Malt Shovel Brewery
			West End Brewery
Murwillumbah Brewry			
ライオン	3	ニュージーランド	Pride Brewery
			Speights Brewery
New Belgium Brewing	3	米国	Wither Hills Winery
			Fort Collins
			Asheville
			Bell's

※キリンビバレッジ滋賀工場はキリンビール滋賀工場内に併設のため、キリンビール滋賀工場に含む

GHG排出量削減のための導入技術、導入設備 (国内)

	太陽光発電	バイオガスボイラー	バイオガスエンジン式 コージェネレーションシステム	PPAモデルによる 大規模太陽光発電導入	購入電力の再生可能 エネルギー比率100%	
キリンビール	北海道千歳工場	—	○ 2009	—	○ 2024	
	仙台工場	—	—	○ 2005	○ 2022	
	取手工場	○ 2007 (20 kW)	○ 1999	○ 2006	○ 2022	○ 2023
	横浜工場	○ 2006 (30 kW)	○ 2008	○ 2004	—	○ 2024
	名古屋工場	○ 2008 (20 kW)	○ 2023	○ 2009	○ 2021	○ 2021
	滋賀工場	○ 2006 (10 kW)	○ 2009	—	○ 2021	○ 2024
	神戸工場	○ 2005 (20 kW)	○ 1996	○ 2002	○ 2021	○ 2024
	岡山工場	○ 2007 (20 kW)	○ 2011	○ 2007	○ 2022	○ 2023
	福岡工場	○ 2006 (20 kW)	○ 2012	○ 2006	○ 2022	○ 2023
キリンビバレッジ	湘南工場	○ 2006 (60 kW)	○ 2014	—	○ 2024	—
協和キリン	東京リサーチパーク	○ 2010 (20 kW)	—	—	—	○ 2024
	高崎工場	○ 2013 (30 kW)	—	—	—	○ 2023
	富士リサーチパーク	○ 2008 (20 kW)	—	—	—	○ 2022
	宇部工場	○ 2012 (45 kW)	—	—	○ 2023	○ 2023
小岩井乳業	小岩井工場	○ 1996 (10 kW)	—	—	—	—
信州ビバレッジ	本社工場	○ 2015 (8.8 kW)	—	—	—	—

※キリンビール、キリンビバレッジでは、排水処理に嫌気処理設備を導入していますが、この際に副生成物としてメタンを主成分とするバイオガスが回収できます。このバイオガスは再生可能エネルギーで、コージェネレーションやボイラーの燃料とすることでGHGの排出抑制に貢献しています。

# その他の情報開示

## 商品を通じた環境情報開示

対象名	開示内容
エコレール	2006年にはキリンビバレッジが、2010年にはキリンビールが、それぞれ鉄道貨物輸送を活用し地球環境問題に積極的に取り組む企業として、国土交通省が推進する「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。(2022年時点ではキリンビールだけが継続)
カーボンフットプリント	キリンビールは、2008年からビール業界と共にカーボンフットプリントについて取り組みを開始しました。ビール類の算定ルールとなるPCR(Product Category Rule)は2011年2月に認定され、2013年12月に改訂されました。
レインフォレスト・アライアンス 認証マーク	2021年8月に、自然と作り手を守りながら、より持続可能な農法に取り組むと認められた農園に与えられるレインフォレスト・アライアンス認証マークを表示した「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」250ml紙パック(LLスリム)の通年販売を開始しています。
FSC認証ラベル	キリンビール、キリンビバレッジ(トピカーナ含む)の紙容器の多くに、お客様に森林を守ることの大切さを理解いただくために、FSC認証ラベルを付けています。メルシャンの紙容器やサンライズ・ブランドのワインの一部にも付けています。
オーガニックワイン	メルシャンでは、ユーロリーフ、エコサート、ビオディパン、ビオアグリサート、ソヒスサートなどの「オーガニック認証」を受けているワインを販売しています。

## 投資家への情報開示

対象名	開示内容
各種アンケート	<p>各種アンケートなどを通じて環境に関する情報を開示しています。2023年は以下のような外部評価を受けています。(詳しくは→P.31)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CDP水セキュリティ Aリスト ● CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー</li> <li>● ESGファイナンス・アワード・ジャパン 特別賞</li> <li>● 「第4回日経SDGs経営大賞」で「SDGs戦略・経済価値賞」および最高位</li> <li>● FTSE4Good Index ● MSCIジャパンESGセレクト・リーダー指数</li> <li>● S&amp;P/JPX Carbon Efficient Index ● SNAMサステナビリティ・インデックス</li> </ul>
各種レポート	<p>以下のような投資家向け各種レポートでも環境に関する情報を開示しています。(詳しくは→P.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 統合レポート ● キリングループ環境報告書</li> <li>● 協和キリン・アニュアルレポート</li> </ul>
各種ウェブサイト	<p>以下のようなウェブサイトでも環境に関する情報を開示しています。(詳しくは→P.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キリンホールディングス 社会との価値共創サイト(環境)</li> <li>● キリンホールディングス IR情報</li> </ul>
気候関連財務情報	気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書に基づく情報を、2018年から毎年、環境報告書および環境サイトで開示しています。

## 講演

日時	対象名
2021年4月19日	英国大使館 Race to Zeroのビジネスラウンドテーブル
2021年8月2日	国土交通省「水を考えるつどい」パネルディスカッション
2021年9月13日	日経SDGsフォーラム キリングループのCSV経営と環境の取り組み
2021年10月22日	第4回 民間事業者による気候変動適応推進シンポジウム — TCFDにおける物理的リスクへの取組に向けて
2021年11月8日	「農」×「企業」連携セミナー ～SDGsの実現と企業のCSV活動の促進に向けて～
2021年11月16日	エコ・ファースト・シンポジウム — 第6回 気候危機と脱炭素社会
2021年11月25日	環境コミュニケーションと情報開示 -日経ビジネスLIVE-
2022年1月27日	ESGIに係る食品関連企業勉強会 第3回 脱プラスチック及び容器包装リサイクル
2022年3月24日	WWF・株式会社オルタナ Earth Hour
2022年5月25日	Responsible Investor 「世界で急速に進化するサステナブルファイナンスと日本の今」
2022年5月27日	経団連自然保護協議会会員 自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)ウェビナー
2022年6月1日	WWF プラスチックサーキュラーチャレンジ2025 みらいダイアログ
2022年10月31日	東北大学 生物多様性観測と自然関連財務情報開示(TNFD)
2022年10月31日	三井住友海上火災保険株式会社「第3回気候変動シンポジウム2022」
2022年11月11日	コペルニク「～プラスチック廃棄物の課題理解及びその解決策について～第4回ウェビナー」
2022年12月2日	SB ESGシンポジウム 「統合思考経営」の実践と総括
2022年12月2日	日本経済新聞社ウェブセミナー「生物多様性と企業経営」
2023年2月27日	LCAフォーラムが「非財務情報の開示：TNFDと生物多様性評価」
2023年1月21日	生物多様性流化フォーラム 生物多様性主流化フォーラム「OECDを通じた企業の生物多様性保全活動を通じた企業の生物多様性保全活動」
2023年2月9日	エコ・ファースト推進協議会 第1回情報交換会
2023年2月14日	サステナブル・ブランド国際会議2023 東京・丸の内「自由演技としての統合報告書の可能性」
2023年2月22日	大丸育「CSV経営サロン」[生物多様性ビジネス]
2023年2月23日	LCA日本フォーラム主催セミナー 非財務情報の開示：TNFDと生物多様性評価
2023年6月21日	日本環境倶楽部
2023年9月15日	企業研究会(第14期 環境マネジメント交流会議)
2023年9月15日	脱炭素経営 EXPO
2023年10月13日	PRI in Personサイドイベント 金融機関によるネイチャーポジティブ経済実現に向けた取組 ～TNFD最終開示提言(v1.0)への対応を中心に～
2023年11月30日	三菱UFJモルガン・スタンレー証券主催 ESGミーティング

## 事例紹介

対象名	開示内容
環境省 「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド～ver3.0」	シナリオ分析開示事例 ④ <a href="http://www.env.go.jp/policy/policy/tcfd/TCFDguide_ver3_0_1_2.pdf">http://www.env.go.jp/policy/policy/tcfd/TCFDguide_ver3_0_1_2.pdf</a>
農林水産省 「令和元年度 食料・農業・農村白書」	「生物多様性に配慮したワイン用ぶどうの栽培」 ④ <a href="https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/r1_h/index.html">https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/r1_h/index.html</a>
環境省「環境報告ガイドライン2018年版」	キリン事例 ④ <a href="http://www.env.go.jp/policy/2018.html">http://www.env.go.jp/policy/2018.html</a>
農林水産省 「農林水産分野における生物多様性」	日本ワインのぶどう畑の植生再生活動 ④ <a href="https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/attach/pdf/pr-30.pdf">https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/attach/pdf/pr-30.pdf</a>
一般社団法人生命保険協会 「はじめての気候変動対応ハンドブック」	TCFD開示事例 ④ <a href="https://www.seiho.or.jp/info/news/2019/pdf/20191115_1.pdf">https://www.seiho.or.jp/info/news/2019/pdf/20191115_1.pdf</a>
経団連「生物多様性・自然資本に関する企業情報開示のグッドプラクティス集」	スリランカ紅茶農園レインフォレスト・アライアンス認証取得支援 ④ <a href="http://www.env.go.jp/press/108055.html">http://www.env.go.jp/press/108055.html</a>
農林水産省「環境のための農山漁村×SDGs ビジネスモデル ヒント集Ver2」	シャトー・メルシャンブドウ畑での生態系調査・植生再生活動 ④ <a href="https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kanyogijyutuSDGs/">https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kanyogijyutuSDGs/</a>
環境省 「生物多様性民間参画 事例集」	リスク・機会の特定 ④ <a href="http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/guideline/jireisyu.pdf">http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/guideline/jireisyu.pdf</a>
環境省 「ひろがる カーボンニュートラル～トップが語る脱炭素～」	トップメッセージ ④ <a href="http://www.env.go.jp/earth/carbon-neutral-messages/">http://www.env.go.jp/earth/carbon-neutral-messages/</a> ④ <a href="https://www.youtube.com/watch?v=1XH3rAa4OtU">https://www.youtube.com/watch?v=1XH3rAa4OtU</a>
国立環境研究所 TCFDに関する取り組み事項	TCFD提言に基づくシナリオ分析と戦略への反映 ④ <a href="https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/tcfd/report/report_004.html">https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/tcfd/report/report_004.html</a>
農林水産省：食品企業のためのサステナブル経営に関するガイダンス	事例 ④ <a href="https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fund/esgitakuR4.html">https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fund/esgitakuR4.html</a>
TCFDコンソーシアム 気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0 (TCFDガイダンス3.0)」	事例集 ④ <a href="https://tcf-consortium.jp/pdf/news/22100501/TCFD_Guidance_3.0_Case_Examples_j-v2.pdf">https://tcf-consortium.jp/pdf/news/22100501/TCFD_Guidance_3.0_Case_Examples_j-v2.pdf</a>
日経BP	ESGとTNFD時代の生物多様性・ネイチャーポジティブ経営